

[Hondaの交通安全情報紙]



Since1971

SJ ホームページは

●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山 2-1-1
TEL 03 (5412) 1736 http://www.honda.co.jp/safetyinfo/
●編集人：原田洋一

※ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。
株式会社アストクリエイティブ
安全運転普及本部係
TEL 03 (5439) 1191
E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp

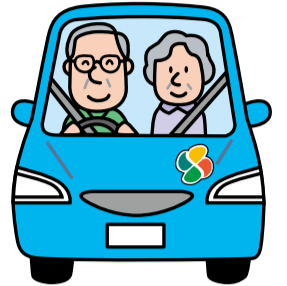


Safety for Everyone

Honda はすべての人の交通安全を願い活動しています。

特集：高齢ドライバーの交通事故防止

安全に長く運転を続けるために



警察庁の資料によると、平成27年末時点の75歳以上の運転免許保有者は約478万人（全保有者数：約8200万人）で10年前の2倍となり、今後さらに増えることが予測されている。また、全交通死亡事故件数（第1当事者が原付以上）は減少傾向にあるものの、75歳以上の高齢ドライバーによる死亡事故件数が占める割合は高くなっている。今回は、こうした背景を受けて3月12日に施行された改正道路交通法のポイントを解説するとともに、診断が下されれば免許取り消しにつながる認知症の予防や、各地域が取り組んでいる高齢ドライバーへの安全運転教育を紹介する。

2017
6・7
June・July

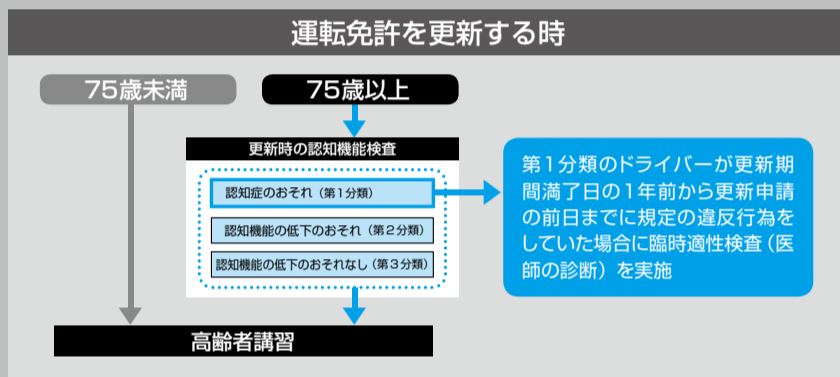
NO.484

CONTENTS

- P1 特集：高齢ドライバーの交通事故防止
安全に長く運転を続けるために
- P4 教育最前線 / 神奈川県大和市
現場訪問 / コカ・コーライーストジャパン (株)
- P5 TOPICS ① / Honda Cars 駿河
TOPICS ② / Honda Cars 東京中央
TOPICS ③ / 第17回全国自動車教習所教習
指導員安全運転競技大会
- P6 FRONT LINE / 大阪大学大学院 工学研究科
教授 土井健司さん
- P7 危険予測トレーニング (KYT) /
見通しの悪い交差点 (四輪車編)
SJクイズ
指導者ファイル / 山形県・天童市
交通安全教育指導員の皆さん
- P8 SAFETY FOCUS / 東京都中野区

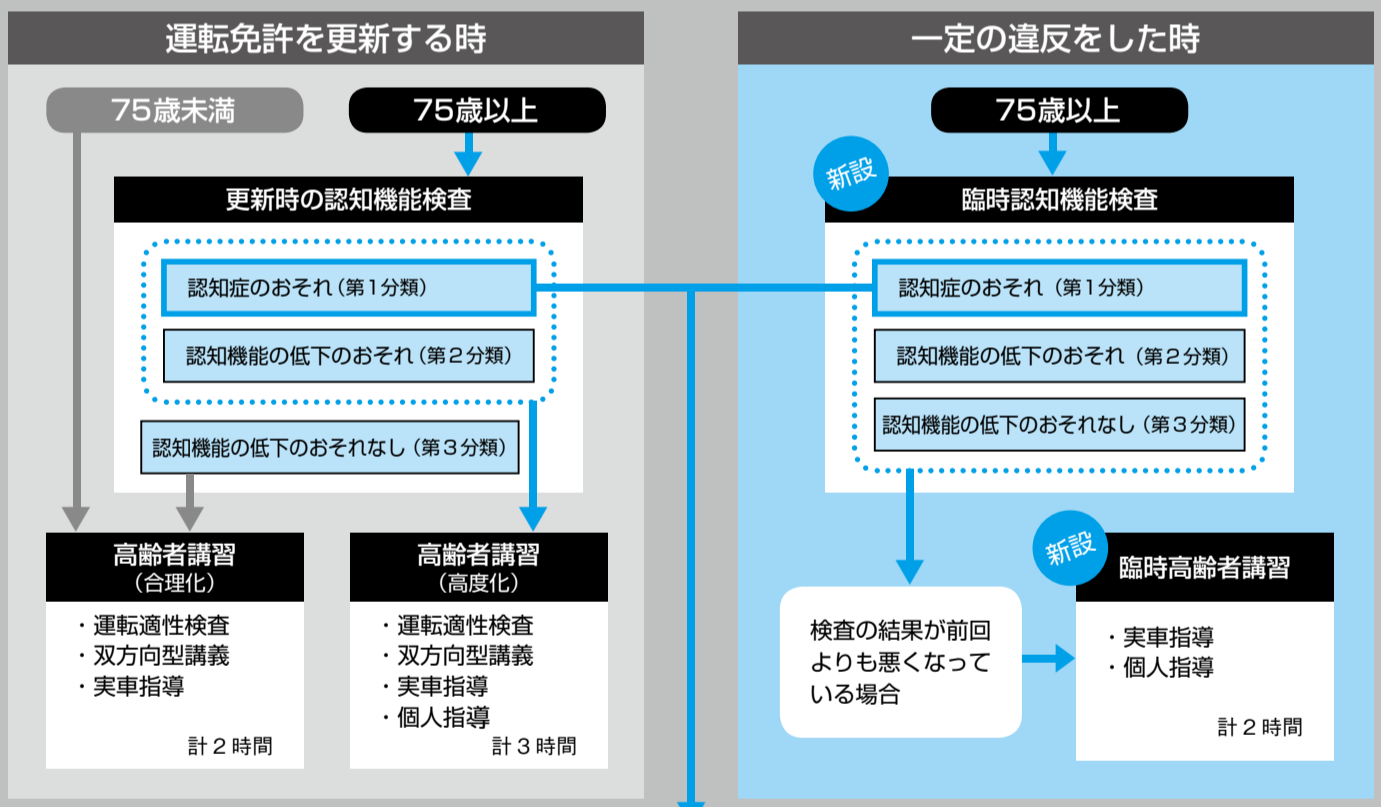
改正前

(平成29年3月11日以前)



改正後

(平成29年3月12日以降)



臨時適性検査または診断書提出命令

臨時認知機能検査の要件となる一定の違反行為

- ・信号無視 (例：赤信号を無視)
- ・通行禁止違反 (例：通行禁止の道路を通行)
- ・通行区分違反 (例：逆走、歩道を通行)
- ・横断等禁止違反 (例：転回禁止の道路で転回)
- ・進路変更禁止違反 (例：黄の線で区画されている車道で、黄の線を越えて進路を変更)
- ・シャ断路切立入り等 (例：踏切のシャ断機が閉じている間に踏切内へ進入)
- ・交差点右左折方法違反 (例：徐行せずに左折)
- ・指定通行区分違反 (例：直進レーンを通行しているにもかかわらず、交差点で右折)
- ・環状交差点左折等方法違反 (例：徐行せずに環状交差点で左折)
- ・優先道路通行車妨害等 (例：交差点が優先道路であるにもかかわらず、優先道路を通行中の車両の進行を妨害)
- ・交差点優先車妨害 (例：対向して交差点を直進する車両があるにもかかわらず、それを妨害して交差点を右折)
- ・環状交差点通行車妨害等 (例：環状交差点内を通行する他の車両の進行を妨害)
- ・横断歩道等における横断歩行者等妨害等 (例：歩行者が横断歩道を通行しているにもかかわらず、一時停止することなく横断歩道を通行)
- ・横断歩道のない交差点における横断歩行者妨害等 (例：横断歩道のない交差点を歩行者が通行しているにもかかわらず、交差点に進入して、歩行者を妨害)
- ・徐行場所違反 (例：徐行すべき場所で徐行しなかった)
- ・指定場所一時不停止等 (例：一時停止せずに交差点に進入)
- ・合図不履行 (例：右折する時に合図を出さなかった)
- ・安全運転義務違反 (例：ハンドル操作を誤った、必要な注意をすることなく漫然と運転)

改正道路交通法 高齢ドライバー対策

75歳以上のドライバーは、3年に1回の免許証更新時に30分程度で終わる認知機能検査の結果で、「認知症のおそれあり(第1分類)」「認知機能低下のおそれあり(第2分類)」「認知機能低下のおそれなし(第3分類)」に分類される。

道路交通法の改正前は、第1分類と判定されたドライバーだけが一定期間内に規定の違反行為をした時に都道府県の公安委員会が行う臨時適性検査を受け、そこで認知症と判断された場合に免許取り消し等の対象になった。

平成29年3月12日の改正後は、第1分類に入るドライバーは違反の有無にかかわらず全員、臨時適性検査(医師の診断)を受けるか、主治医などの診断を受け、その診断書の提出が義務づけられることになった。ここで、認知症であることが判明した時は、免許の取消し等の対象になる。

また、今回の改正により、第1分類または第2分類と判定されたドライバーに対する高齢者講習については、実車指導の際に運転の様子をドライブレコーダーで記録しその映像に基づいて個人指導を行うなど内容が高度化され、講習時間も延長されている。一方、75歳未満と75歳以上のうち第3分類と判定されたドライバーに対する高齢者講習については、内容が合理化され、時間も短縮された。

施行前は3年に1回の免許証更新時に受ける認知機能検査だが、免許更新時以外でも一定の違反行為(上記参照)があった場合は、3年を待たずに受けることになる(臨時認知機能検査)。そこで第1分類と判定されると、更新時と同様に臨時適性検査を受けるか、または主治医などの診断を受けてその診断書を出すことになる。この臨時認知機能検査の結果が前回よりも悪化している場合は、臨時高齢者講習を受けることになる。

特集 高齢ドライバーの交通事故防止

安全に長く運転を続けるために

認知症の特徴

早期発見によって 認知症の進行を抑える

高齢ドライバーが安全に長く運転を続けていくためには、「認知症のおそれ」がないかが重要になってくる...



鳥取大学医学部教授・日本認知症予防学会理事長の 浦上克哉さん

Cognitive Impairment) の状態だといふ。この段階で気づけば進行を抑えることができるので、思い当る人はぜひ専門医の診察を受けてほしいと浦上さんは訴える。

予防につながる アロマセラピー

アルツハイマー型認知症を発症すると、においがわからなくなるといふ特徴がある。これに着目した浦上さんは、脳の海馬が障がいを受けるより先に嗅覚のはたらきが低下することをつきとめた。

嗅神経を刺激するのに効果的な方法として、浦上さんはアロマセラピーを推奨する。アロマセラピーとはハーブや果実、花などから香りの成分を抽出した精油(アロマオイル)の芳香を吸い込むことで、心身を健康に保つ療法だ。

「アルツハイマー型は、脳内にアミロイドβというタンパク質が分解されずに蓄積することで発症します。このアミロイドβを分解するためには十分な睡眠が必要不可欠です。良い睡眠をとるためにも、アロマセラピーを活用してほしいと思います。」

運転の変化によって MCIの兆候をとりえる

「車庫入れが下手になったり、車体にコソリ傷が増えていたり、今までなかつたミスをするようになったら認知症を疑う必要があります。」

運転時認知障がい早期発見チェックリスト 30

「自分に当てはまる」と思う項目にチェック

- 車のキーや免許証などを探し回ることがある。
今までできていたカーステレオやカーナビの操作ができなくなった。
トリップメーターの戻し方や時計の合わせ方がわからなくなった。
機器や装置(アクセル、ブレーキ、ウィンカーなど)の名前を思い出せないことがある。
道路標識の意味が思い出せないことがある。
スーパーなどの駐車場で自分の車を停めた位置が分からなくなることがある。
何度も行っている場所への道順がすぐに思い出せないことがある。
運転している途中で行き先を忘れてしまったことがある。
良く通る道なのに曲がる場所を間違えることがある。
車で出かけたのに他の交通手段で帰ってきたことがある。
運転中にバックミラー(ルーム、サイド)をあまり見なくなった。
アクセルとブレーキを間違えることがある。
曲がる際にウィンカーを出し忘れることがある。
反対車線を走ってしまった(走りそうになった)。
右折時に対向車の速度と距離の感覚がつかみにくくなった。
気がつくと自分が先頭を走っていて、後ろに車列が連なっていることが良くある。
車間距離を一定に保つことが苦手になった。
高速道路を利用することが怖く(苦手に)なった。
合流が怖く(苦手に)なった。
車庫入れで壁やフェンスに車体をこすることが増えた。
駐車場のラインや、枠内に合わせて車を停めることが難しくなった。
日時を間違えて目的地に行くことが多くなった。
急発進や急ブレーキ、急ハンドルなど、運転が荒くなった(と言われるようになった)。
交差点での右左折時に歩行者や自転車が急に現れて驚くことが多くなった。
運転している時にミスをしたり危険な目にあったりすると頭の中が真っ白になる。
好きだったドライブに行く回数が減った。
同乗者と会話しながらの運転がしづらくなった。
以前ほど車の汚れが気にならず、あまり洗車をしなくなった。
運転自体に興味がなくなった。
運転すると妙に疲れるようになった。

30問のうち5問以上にチェックが入った方は要注意。認知症予防を心がけていただくとともに、毎年1度はご自身でチェックを行い、項目が増えるようなことがあれば専門医や専門機関の受診を検討しましょう。

たミスをするようになったら認知症を疑う必要があります。運転行動においても認知症の兆候をつかむことを可能にするため、浦上さんは自身が理事を務める特定非営利活動法人 高齢者安全運転支援研究会による「運転時認知障がい早期発見チェックリスト30」(右記参照)を監修した。このリストは同研究会や埼玉県警察本部のホームページを通じて公開されている。

このほか、浦上さんはタッチパネルパソコンとの対話形式による「物忘れ相談プログラム」も開発。言葉や日時に関する質問、図形を識別する質問を通して、アルツハイマー型の検査ができる。鳥取県内の3カ所の運転免許センターをはじめ、医療機関、地域包括支援センターなどに導入されている。「認知症は治療だけでなく、予防という観点からも対応していく必要があると思います。認知症の予防には「運動」「知的活動」「コミュニケーション」の3つが効果的だといふことがわかってきました。今後も、早期発見と予防の大切さを、あらゆる機会を通じて発信していきたいと思っています。」

栃木県ではツインリンクもてぎ内にあるホンダの交通安全センター、アクティブセーフティトレーニングパーク(ASTP)で県内の高齢ドライバーを対象に「しあわせ高齢ドライバースター」

地域での高齢ドライバーへの交通事故防止対策

加齢による身体機能の低下や運転のクセは自分自身では気づきにくい。それら高齢者に自覚してもらおうと、安全運転や事故防止につなげようという取組みが全国各地で行われている。ここからは、そのいくつかを紹介する。

栃木県の取組み

自分の運転を客観的に振り返る

栃木県ではツインリンクもてぎ内にあるホンダの交通安全センター、アクティブセーフティトレーニングパーク(ASTP)で県内の高齢ドライバーを対象に「しあわせ高齢ドライバースター」

出典：特定非営利活動法人 高齢者安全運転支援研究会ホームページ http://sdsd.jp/untenjiniunchisyogai/checklist30/

特集 高齢ドライバーの交通事故防止

安全に長く運転を続けるために



「しあわせ高齢ドライバースクール」の実車走行ではインストラクターが助手席に同乗し、受講者の運転で気になった場面をチェックしていく

実車走行は ASTP のあるツインリンクもてぎ内の道路で行われる



実車走行が終了すると、教室で各々の運転を振り返る



実車走行で記録された映像。0.25G以上の急減速・急加速があった場面は自動的に記録されるほか、インストラクターが気になった場面も任意で残せる(画面中央の横に並ぶ丸数字)

※写真は新しい機材でスクールをデモンストレーションしたもの

ル(以下、スクール)を開催している。高齢ドライバーに自分の運転の変化に気づいてもらうことで、交通事故に遭わないようにすることをめざすためのものだ。このスクールで使用される高齢者向けの安全運転教育プログラムは、「自己観察法」(「受講者自ら答えを見つけ出す」ことが特徴となっている。受講者3人ごとにインストラクター1人がつくという少人数制で、受講者一人ひとりが実車で指定されたコースを運転し、その様子を車内外に設置したカメラで撮影し、速度

や加減速の変化も記録する。その後、受講者3人1組となり、記録された映像やデータをもとに各々の運転を振り返る。例えば、コースの数カ所にある「止まれ」の標識が設置された一時停止場所では停止線の手前で止まっているか、適切な安全確認ができていないかを検証する。スクールの担当しているASTPの氏家幸作インストラクターは「私たちは、できていなかった点を指摘するのではなく、本人の気づきを促すようにサポートしています。映像を活用することで、一時停止、安全確認が思っているよりも

きていないことに気づいていただけようです。また、ほかの受講者の運転行動や考え方の違いを知っていただくことも、自分の運転を見つめ直すきっかけになっていると思います」と話す。スクールが始まった平成21年度から平成28年度までに1000人以上が受講している。平成29年度からはトレーニング車両を含め、車載カメラやデータ記録装置が一新されている。氏家インストラクターは栃木県内のすべての高齢ドライバーに受講してほしいと願う。

●埼玉県の取り組み

タブレットで有効視野を確認

埼玉県では、昨年11月より、老人クラブや自治会など高齢者が集まる会合に安全運転に関する専門職員(高齢者安全運転推進員)を派遣する講習会を開始。これまでに48回開催し、3300人の高齢者が受講している(平成29年5月16日現在)。この講習会ではタブレット端末を活用し、自分の有効視野が狭まっていることを高齢者に確認してもらっている。

講習会を主催する埼玉県民生活部防犯交通安全課主幹の伊藤智章さんは「加齢による身体の変化を実感していただくためには、本人の気づきが重要です。その気づきのきっかけづくりとして、タブレットによるテストを導入しました」と話す。

テストはタブレットの画面中央に表示される○や△といった記号を注視しながら、画面の端で点滅する別の記号を覚えて答えるというものだ。千葉県立保健医療大学准教授の藤田佳男さんが開発したソフトがベースとなっている。また、画面に複数の記号が一瞬表示され、すべて同じ記号だった時のみ、画面をタッチするという反応の正確さやスピードを判定するテストができるようになっている。このほかにも、講習会ではホンダ動画KYTを使い、高齢者の危険感受性と事故回避能力を高めるためのメニューも用意している。



埼玉県の高齢者安全運転推進員による講習会。タブレットによるテストで自分の有効視野が狭まっていることを高齢者に確認してもらう



周辺に出現した形を入力

タブレットの画面



講習会では Honda 動画 KYT も活用している

●徳島県警の取り組み

ドライブレコーダーを活用

徳島県警察本部は(二社)日本自動車販売協会連合会徳島県支部(以下、自販連)、徳島文理大学、伊月病院と協力して4月1日から「高齢ドライバー安全運転支援ネットワーク事業」を開始した。

この事業は徳島県内の四輪販売会社において新車を購入し、かつ協力を承諾してくれた高齢ドライバー(65歳以上)にドライブレコーダーを無償で提供し、記録された映像を大学の研究者らに分析してもらおうという取組みだ。協力した高齢ドライバーは取付1ヵ月後、6ヵ月後およびヒヤリ・ハット体験時に映像を徳島県警に提出する。自販連はドライブレコーダーの提供・取付、徳島文理大学は映像の分析、伊月病院は高齢ドライバーの運転技能(身体・認知機能等)に関する評価測定、徳島県警は映像に基づく交通安全指導をそれぞれ担当する。

徳島県警察本部交通部企画課指導官の田村公一さんは「県内の高齢ドライバーの日常生活での『している運転』を確認し、その運転特性の把握やヒヤリ・ハット場面に遭遇した際の前段階の状況を分析することにしました。そして、これらの情報をもとにした交通安全教育の実施によって高齢ドライバーの交通事故防止を図っていきたくと考えています」と事業の目的を話す。

改正道路交通法が施行され、75歳以上の認知機能検査が強化されるなど、高齢ドライバーを取り巻く環境は大きく変化している。都市部以外の公共交通機関が整備されていない地域では、クルマの運転ができないと、買い物や通院といった日常生活自体が成り立たない高齢者が多いはずだ。高齢ドライバーが安全にできるだけ長く運転を続けられる環境づくりと教育を含めたサポートが必要なのではないだろうか。

※1 自己観察法=東北工業大学の太田博雄名誉教授らが(公財)国際交通安全学会などで研究成果を報告している手法。自分の運転をビデオで録画して観察し、「我が身振り見て、我が振り直す」手法。
※2 Honda 動画 KYT(危険予測トレーニング)=実際の交通状況を再現した動画を見ながら危険を予測し、結果を参加者同士が振り返って議論することで安全を学ぶ教育機器。詳しくは右記のホームページを参照。http://www.honda.co.jp/safetyinfo/animation_kyt/

●神奈川県大和市

教育最前線
連載 45

保険付きの自転車運転免許証の交付で 小・中学生への自転車教育の充実を図る



6月7日に大和市立上和田中学校で開催された「自転車交通安全教室」は1年生約100名が受講。大和市の交通安全教育専門員や損害保険会社のスタッフが指導を担当した

てきた。そして、平成28年11月からは、この自転車運転免許証に自転車保険を付けたのである。

これを機に、大和市は保険の加入対象となる小・中学生への自転車教育を充実させるため、従来の内容と実施時期を見直し、平成29年度から再構築した。

これまで実施してきた低学年を中心とした実技指導による「自転車乗り方教室」に加え、小学5年生で「自転車交通安全教室」を設定した。自転車の交通ルール・マナーとともに自転車の事故事例を紹介し、事故の恐ろしさを伝えるという内容であり、この教室を受講することで、自転車運転免許証が交付される。

また、中学生に対しては、これまで一部の中学校でスケアード・ストレート(スタントマンによる交通事故の再現)による教育を実施してきたが、市立全9校の1年生を対象に「自転車交通安全教室」を新設し、自転

車利用者の立場でのKYTを行ったり、自転車の事故事例を通じて、保険の観点から損害賠償発生や民事・刑事上の責任が及ぼす影響について考える内容となっている。

大和市都市施設部道路安全対策課課長の山川さんは「小・中学生いづれも、自転車事故の加害者となってしまった場合、どのような責任を負うことになるのかを理解してもらい、安全運転と事故防止につなげていくことを目的としています」と話す。

保険付きの自転車運転免許証の交付には「自転車乗り方教室」や「自転車交通安全教室」の受講を条件に、保険料は市が全額を負担している。自転車乗用中に他人にケガをさせたり、他人の物を壊したりして法

■市立小学校

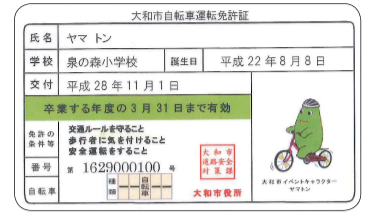
	主な内容	対象
自転車乗り方教室	●模擬道路での実技指導	・19校(希望) ・主に3年生
自転車交通安全教室	●自転車事故事例による事故の恐ろしさ ●交通ルール・マナー	・19校(全校) ・5年生

↓自転車運転免許証交付

■市立中学校

	主な内容	対象
自転車交通安全教室	●交通事故が及ぼす影響、民事・刑事上の責任について ●交通ルール・マナー	・9校(全校) ・1年生

↓自転車運転免許証交付



小・中学生に交付される自転車免許証。裏面には自転車安全利用五則と、事故が起きてしまった場合に連絡するフリーダイヤル(24時間365日受付)が記されている

律上の損害賠償責任が発生した場合に保険金が支払われる。今年5月までに8件の自転車事故で、この保険が適用されている。

こうした取組みは学校や保護者にも好評で、他の自治体からも関心が寄せられている現状だ。「保険の補償範囲は子どもたちだけでなく、同居の親族全員も含まれます。ですから、親や祖父母の世代への自転車教育についても充実させていく必要があると考えています」と山川さんは今後を見据える。

■大和市の自転車保険の主な内容

対象	・大和市立小学校に在籍している5～6年生 ・大和市立中学校に在籍している1～3年生
事故の対象エリア	日本国内
賠償責任保険金額	1億円(自己負担額0円)
補償期間	1年(在学中は自動的に更新)
補償範囲	同居の親族全員(6親等以内)
示談交渉サービス	あり



自転車の事故事例やKYTを使って、事故の原因は何か、どのようにすれば防げるかを生徒に考えてもらう

神奈川県のはほぼ中央に位置する大和市は市内全域が平地であることから、市民の自転車利用が多く、自転車に係わる交通事故が全交通事故件数の約3割を占めている。そのため、同市では市民への自転車教育に力を入れている。

その1つとして、平成25年度から「自転車乗り方教室」を受講した市立小学校の児童に対して自転車運転免許証を交付し

現場訪問

●コカ・コーライーストジャパン(株)

業務で運転が必要となる新入社員に 安全運転のマインドと技術を伝える



交通教育センターレインボー埼玉のインストラクターが模範となる運転操作を新入社員にわかりやすく示す

あります。入社段階で正しい運転操作を身につけてもらい、事故の抑制につなげることが研修の目的です」。

5月12日、レインボー埼玉で研修が開催され、新入社員19名が参加した。午前中は「動画KYT」(3面参照)を活用した座学からスタート。見えない危険をできるだけ早く予測することで、アクセルを緩める、ブレーキをかけるなどの対応ができ、事故の回避につながるとインストラクターが受講者に伝えた。続いて、運行前点検のポイント、正しい運転姿勢をインストラクターが説明していく。

車庫入れや狭路走行に取り組む新入社員の運転状況をインストラクターがチェックしながらアドバイスをしていく



午後からはトレーニングコースに出て、車庫入れ、縦列駐車、狭路走行を実施。車庫入れと縦列駐車は、インストラクターがそれぞれ安全・確実に行うための模範を実演。狭路走行ではパイロンによって道幅が狭められたS字やクランクを通過する。切り返しを行っている受講者には、インストラクターが「不安を感じたら、必ず降車してください。パイロンに接触してしまった人は、なぜぶつけてしまったのか考えて次に活かしましょう」とアドバイスした。

前野さんは「運転免許を取得して1年以上の新入社員が多いため、最初は苦戦して



「動画KYT」では実際の交通状況を再現した動画を見ながら、危険を感じた場面です元のボタンを押す。その後、各々が押したタイミングを比較することで、他者との危険感受性の違いに気づいてもらう

いましたが、トレーニングを重ねることで上達していく様子を確認できました」と研修の成果を語る。レインボー埼玉では、新入社員一人ひとりの運転の特徴をインストラクターがチェックし、レポートをコカ・コーライーストジャパン(株)に提出している。同社では、それを配属先の上司と共有し、職場でのフォローアップに活用しているという。

今回を含めて研修は5月中に5回開催され、合計103名が参加。さらに、配属先でトラックを運転する新入社員は6月にレインボー埼玉とレインボー浜名湖で行われる1泊2日の研修も受講した。

コカ・コーライーストジャパン(株)(本社:東京都港区)は、コカ・コーラ製品の製造をはじめ、関東・東海・南東北の1都15県で物流・輸送・販売を行っている企業だ。同社では毎年、業務で車両の運転が必要となる新入社員を対象に「新卒安全運転研修(以下、研修)」を実施。関東・南東北地域に配属された新入社員は交通教育センターレインボー埼玉(以下、レインボー埼玉)、東海地域に配属された新入社員は交通教育センターレインボー浜名湖(以下、レインボー浜名湖)で受講する。

コカ・コーライーストジャパン(株)サプライチェーン本部配送統括部車両企画管理部安全推進課の前野隆洋さんは、新入社員への安全運転教育の意義を次のように話す。「入社1～2年目の社員は、軽微ではあるものの事故を起こす割合が高い傾向が

TOPICS

01 ● Honda Cars 駿河 「子どもたちを交通事故から守りたい」、「自分たちも楽しむ」という想いで取り組む



西方保育園では年長クラスと年中クラスそれぞれで「あやとりい」と「Honda交通安全かるた」を活用した交通安全教室を実施

静岡県菊川市、掛川市、牧之原市で5拠点を展開するHonda Cars 駿河は5月11日、菊川市にある西方保育園で「あやとりいひよこ編」(以下、あやとりい)を活用した交通安全教室を開催した。同社は、スタッフが拠点の近隣にある幼稚園・保育園に向いての交通安全教室を4年前から行っている。

Honda Cars 駿河 代表取締役会長の清水厚さんは「『あやとりい』の存在を知り、当社の社会貢献活動の1つとして始めました」と振り返る。この活動は菊川市や掛川市の幼稚園・保育園に口コミで広がり、今



年度は17園から開催の依頼を受けている。

同社では、拠点スタッフ3名と本社スタッフ1名の4名体制で教室を運営している。「お子さんの関心を引きつけ、わかりやすく話すように工夫することは、通常の接客にも活かせる部分が多いと思います」と、清水さんは入社1年以内のスタッフを中心に「あやとりい」を担当してもらうよ

うにしている。

指導者役となった樋高真紀さんは「『子どもたちを交通事故から守りたい』という想いと『自分たちも楽しむ』という気持ちで取り組んでいます。回を重ねていくうちに、この活動の重要性も感じるようになりました。できるだけ多くの園で開催していきたい」と話す。

今年度からは樋高さんの発案で「あやと

りい」だけでなく、「Honda 交通安全かるた」も交通安全教室に取り入れている。また、交通安全教室には同社が所有するポニーを同行させている(写真参照)。「遊び心も大切です。お子さんに喜んでいただければ、それでいい」と清水さんは笑う。「こうした活動を通じて、お子さんを教育していくことの必要性を全スタッフで共有していきたいと思っています」。

写真左から、Honda Cars 駿河の片山大樹さん(掛川インター店)、川口真奈さん(菊川店)、樋高真紀さん(本社)、藤田正勝さん(掛川東店)



Honda Cars 駿河が所有しているポニーの「ミスター・エド」。交通安全教室に同行させ、子どもたちに乗馬や餌やりの体験ができるようにしている

02 ● Honda Cars 東京中央 自転車シミュレーターを活用し、東京都が推進する自転車安全利用の取組みに貢献



4月29日、二子玉川ライズショッピングセンター(東京都世田谷区)で開催された「自転車安全利用TOKYOキャンペーン」

キックオフイベントで、Honda Cars 東京中央に主催する東京都青少年・治安対策本部より「自転車安全利用功労者に対する本



東京都青少年・治安対策本部から感謝状を受け取り、挨拶を述べるHonda Cars 東京中央 社長の梶谷忠生さん

部長賞」が贈呈された。

都内に73拠点を展開するHonda Cars 東京中央は、平成25年より社会貢献活動の一環としてHonda自転車シミュレーターを活用した安全運転啓発活動等を行い、積極的に自転車交通事故防止活動を推進。事業者内での自転車安全利用リーダーの育成等を目的とした東京都主催のセミナーに講師を無償で派遣するなど、自転車の安全利用推進に貢献していることが評価された。贈呈式に出席した同社社長の梶谷忠生さんは「自動車ビジネスにHonda Cars 東京中央は東京都内で開催される地域イベントなどでも、自転車シミュレーターを活用した交通安全教育を展開している

携わる者の責任として、地域の交通安全に何らかの形で貢献したいと思い、活動を続けています。それが、こうした形で評価していただけたことは励みになります」と語った。



03 ●第17回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会 安全運転の技術を競い合い、指導力向上につなげる



6月1日、2日の両日、鈴鹿サーキット交通教育センター(三重県鈴鹿市)で「第17回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」(主催:本田技研工業(株)安全運転普及本部、後援:一般社団法人全日本指定自動車教習所協会連合会、本田技研工業(株)法人営業部)が開催された。

同大会は、全国の自動車教習指導員の自己研鑽への動機づけや、他の教習所との交流の場を提供することを目的に2001年より毎年開催されている。

今大会には25都府県84校から157名の選手が参加し、各競技の審判として23校25

名の教習指導員が協力した。

選手は普通二輪部門、大型二輪部門、四輪部門に分かれ、運転技術の正確さやタイムを競う4種目の実技競技と、実技指導力に取り組んだ。

表彰式では大会運営委員長の原田洋一・本田技研工業(株)安全運転普及本部事務

局長から入賞した選手にトロフィが手渡された。また、普通二輪部門総合1位の東部自動車学校(静岡県)・水口博隆さん、同2位の大阪香里自動車教習所(大阪府)・末石辰也さん、大型二輪部門総合1位の安城自動車学校(愛知県)・小山哲郎さん、同2位のアヤハ水口自動車教習所(滋賀県)・和田一樹さん、四輪部門総合1位のアヤハ水口自動車教習所(滋賀県)・林勇樹

さん、同2位の山口県萩自動車学校(山口県)・波田昌之さんには、全日本指定自動車教習所協会連合会会長賞も贈呈された。

「実技指導力」では、安全運転の指導者として必要な知識と指導力を、テーマに対するレポートを作成しながら選手同士で確認し合う



普通二輪部門「バイロスラローム」



四輪部門「ブレーキング回避」

FRONT LINE

訪日観光客のレンタカー利用急増に伴う 交通事故リスクの把握と軽減策の提案

近年、外国から日本を訪れる（インバウンド）観光客が増加している。これに伴い、人気の高い北海道や沖縄では訪日観光客のレンタカー利用も増え、日本人と異なる運転慣習を持つ外国人の交通事故リスクが懸念されている。

「私の専門は都市交通計画ですが、まちづくりや地域づくりを手がけていく中で、観光というテーマも扱っていました。観光については前向きな話が多いのですが、インバウンドを契機に日本の社会が国際化された時、道路交通上でどのような問題が起きてくるのかを検討する必要があります」と、土井さんは平成28年度に（公財）国際交通安全学会で研究調査プロジェクト「運転行動に影響を与える交通・安全文化に関する国際比較」を立ち上げた。この前年度、土井さんは同学会のプロジェクトで韓国や台湾の交通文化や交通事故について調査し、論文をまとめている。この内容に警察庁も注目し、今回のプロジェクトは同庁と連携することとなった。

地域・国籍別 特徴的な違反項目

	東アジア			東南アジア			北米・南米		
	韓国	中国	台湾	フィリピン	ベトナム	タイ	ブラジル	ペルー	アメリカ
Priority	信号無視		信号無視	歩行者妨害	歩行者妨害		歩行者妨害		
Speed	酒酔い酒気帯び					酒酔い酒気帯び	酒酔い酒気帯び	酒酔い酒気帯び	酒酔い酒気帯び
Comprehension		通行禁止	通行禁止	通行禁止	通行禁止			通行禁止	通行禁止
		追越し通行区分	追越し通行区分					追越し通行区分	追越し通行区分
		踏切不停止等	踏切不停止等					踏切不停止等	踏切不停止等
		右左折方法						右左折方法	右左折方法
		駐停車違反						駐停車違反	駐停車違反

□：地域共通で傾向が強い違反項目 □：全外国籍の中で最も傾向が強い違反項目

まず、土井さんは警察庁が持っている平成25～27年の日本国内における国籍別交通違反および事故データを分析して、地域・国籍別の運転慣習を「Priority」「Speed」「Comprehension」という3つの視点から特徴づける。

地域・国籍別の運転慣習を 3つの視点から特徴づける

分析の結果、地域・国籍別に特徴的な違反項目を抽出した。（上表参照）さらに分析を行ったところ、外国人運転者は「Comprehension」に関わる違反項目の構成比が日本人と比較して高いことがわかった。加えて、地域別の比較では、東アジアは「Priority」、東南アジアは「Priority」と「Comprehension」、南米・北米は「Speed」に関する違反の構成比が高いことが示されたという。

ETC2.0を活用し、 危険箇所を抽出

プロジェクトでは、国土交通省による「ETC2.0車両運行管理支援サービス」に関する社会実験で（株）デンソーが取得したデータの一部を分析し、一定期間内に北海道でレンタカーを利用した日本人と外国人の急ブレーキ発生場所を比較した。結果として、外国人は日本人に比べ、人口集中地区外での急ブレーキ発生割合が大きく、場所は交差点やその付近以外が多かったのである。「これは外国人が日本人に比べ、交通量が少ない状況および単路でヒヤリハットが生じている可能性があるといえます」と土井さんは指摘する。

クラスター1 < 36.4% >	運転技能及び交通安全意識が高い優秀なドライバー群
クラスター2 < 21.8% >	他者に影響されず自由な運転を志向するドライバー群
クラスター3 < 29.1% >	危険認知力及び運転技能が低く、無謀な運転傾向の高いドライバー群
クラスター4 < 12.7% >	運転技能は低いものの慎重な運転を行うドライバー群

<>内は構成比。有効回答数：55



大阪大学大学院 工学研究科 教授

土井健司さん

土井さんは（公財）国際交通安全学会「平成28年度研究調査報告会」（下記参照）で「運転行動に影響を与える交通・安全文化に関する国際比較—訪日観光客のレンタカー利用急増に伴う交通事故リスクの把握と軽減策の提案—」というテーマで成果を発表した



運転者の特性別に対策を 検討していくために

土井さんらは、昨年10月18～23日に関西国際空港でレンタカーを利用した訪日外国人にヒヤリハット調査も実施している。主な対象は特にレンタカー利用の多い香港、台湾、韓国からの観光客で、Webアンケートによって68人から有効回答が得られた。65人がヒヤリハットを経験し、その77%は交差点と回答している。「交差点と回答した半数は、信号機のない交差点を挙げていました。比較的小さな交差点や双方向の交通が分離されていない小さな道路で、出会い頭衝突を起こしそうになったと思われる」と土井さんは考察する。

また、ヒヤリハットに加え、「運転に対する態度および考え方を問う質問項目」にも回答してもらい、その結果をもとに運転者を次の4つのクラスター（ドライバー群）に分けた。そして、各クラスターに応じた対策を検討した。例えば、運転技能が低いクラスター3、4に対しては、右左折が苦手な人が多いことから、右左折の仕方（直進・左折優先など）を指導する必要があるとしている。

安全運転啓発のための アニメーション動画を制作

現在、レンタカー会社では訪日外国人の利用者に向けて「安全運転のしおり」を配付するなど対策を講じているが、あまり読まれていないのが現状のようだ。そこで、プロジェクトでは多言語（英語・中国語・韓国語・タイ語・マレー語）に対応した3分程度の啓発アニメーション動画の制作に着手し、平成29年度中の完成をめざしている。

「今回の研究調査で得た結果を活かして、啓発するポイントも国ごとに変えていこうと考えています。日本に向かう飛行機の中や、レンタカーの手続きの待ち時間などに気軽に見てもらえるようにしていくつもりです」。

東京オリンピック・パラリンピックを控え、今後さらに訪日外国人のレンタカー利用の増加が予測される。2年目を迎えたプロジェクトは、より信頼性の高い対策の立案に向けて、Web上で訪日経験のある外国人への大規模な調査などを実施していく予定だ。

News Review

●（公財）国際交通安全学会 様々な交通問題に関する研究成果を発表

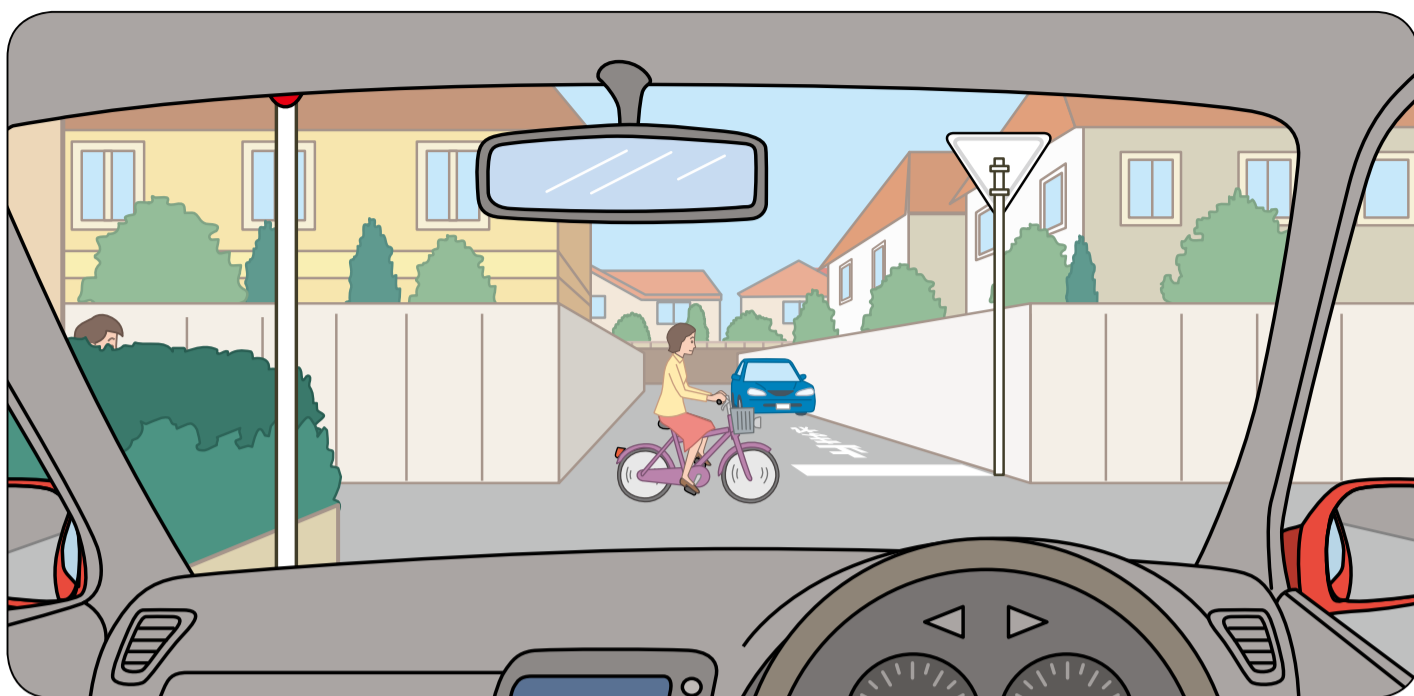
4月14日、経団連会館（東京都千代田区）で、（公財）国際交通安全学会「平成28年度研究調査報告会」ならびに学会賞贈呈式が開催された。研究調査報告会は、平成28年度に成果が明らかになった研究調査プロジェクトの中から「アクセルとブレーキの踏み違いに関する高齢者の認知・行動特性の分析」「カンボジア王国プノンペン市における交通安全向上に関する実証的研究」「通学路 Vision Zero—通学路総合交通マネジメントの提案に向けて—」「運転行動に影響を与える交通・安全文化に関する国際比較」「自動車の自動化運転：その許容性を巡る学際的研究」の5つのテーマが発表された。



また、38回目となる国際交通安全学会賞の贈呈式もあわせて行われ、業績部門では富山市による「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりの展開」が受賞した。

危険予測トレーニング (KYT) — 危険感受性を育てる

第57回 見通しの悪い交差点 (四輪車編)



交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は四輪車のドライバーに、見通しの悪い交差点での危険について考えてもらうためのKYTです。

活用方法

1. 少人数のグループをつくります。
2. 「交通場面のイラスト」を見せながら、意見を出し合います。
3. その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すれば良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト (カラー・A4版)」は下記 SJ ホームページでご覧いただけます。また PDF ファイルもダウンロード (無料) できます。

ホンダ SJ 検索

- 【使用上の注意】
- 営利目的での利用はおやめください。
 - 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
 - その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業 (株) 安全運転普及本部
TEL: 03(5412) 1736 E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業 (株)

あなたは見通しの悪い交差点の手前で一時停止しました。前方の自転車が通過したので、ゆっくり先に進もうとしています。

安全に通過するには、どのようなことを予測する必要がありますか？

Q1

平成 28 年中の交通事故死者数 3904 人を状態別にみると、自動車乗車中は 1338 人ですが、このうち高齢者 (65 歳以上) は何%を占めているでしょう？

- ①約 30% ②約 50% ③約 70%

Q2

高齢運転者 (65 歳以上) による交通事故件数で、最も多い事故類型は次のうちどれでしょう？

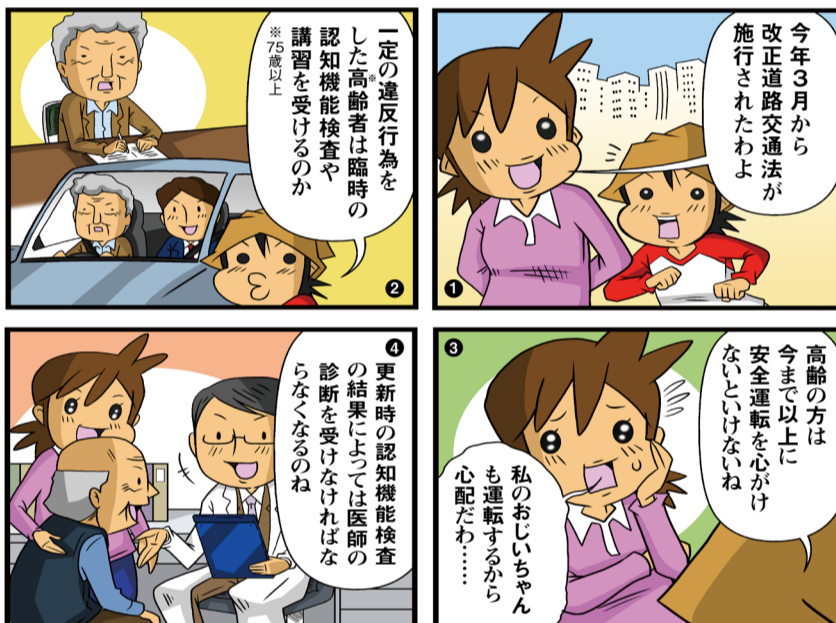
- ①追突 ②出会い頭衝突 ③右折時

Q3

75 歳以上の高齢運転者による交通事故件数を法令違反別にみると、安全運転義務違反が約 7 割を占めていますが、安全運転義務違反以外で最も多い違反は次のうちどれでしょう？

- ①信号無視 ②交差点安全運転進行義務違反 ③指定場所一時不停止等

※「解答」は 8 面下「解説」は下記 SJ ホームページでご覧いただけます。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>



漫画：塚本ケースケ

SJ クイズ ?

高齢ドライバー編

© 本田技研工業 (株)

指導者ファイル

このコーナーでは、地域で活躍する交通安全教育に携わる指導者の方々を紹介していきます。

38

山形県・天童市交通安全専門指導員の皆さん

片桐広美さん (左)、永沢真由美さん (右)



自分の命を守るための知識や行動を幼児が着実に身につけられるように

天童市は山形県のほぼ中央に位置する人口約 6 万人の都市だ。同市の交通安全専門指導員は 4 名で、主に幼児への教育・啓発を担当しているのが片桐さんと永沢さんだ。平成 28 年度は幼稚園・保育園での交通安全教室を 70 回実施したという。

同市では幼児に道路を横断する時のルール「ストップの約束」(ストップ→右、左、右をみる→青信号を確かめて渡る)を身につけてもらうため、ほぼすべての幼稚園・保育園で歩き方の練習を行っており、半数以上の園では実際の道路で様々な交差点の横断を体験してもらっている (園外に出られない場合は、ホールなどに模擬道路をつくって対応)。そして、歩道では車道から離れた場所を、歩道がなければ道路の右側の端を歩くことを指導している。

幼児にわかりやすい言葉遣いを心がけて

いるという永沢さんは「普段の生活の中で、『ストップの約束』など私たちの教えたことを実践しているのを目にした時は、とてもうれしくなります」と話す。

「幼児期に意識づけられたことは、それ以降の人生にも残っていくと思います。ただし、幼児は一度にすべてを理解できません。ですから、年少→年中→年長と段階を踏んで、自分の命を守るための知識や行動を身につけてもらえれば良いと考えています」と片桐さんはいう。

天童市では今年 4 月から Honda の「できるニャンと交通安全を学ぶ」も取り入れた。映像教材だが、流したままにするのではなく、途中で止めて、クイズ形式で幼児とやりとりできる点が良いと二人は評価する。

●天童みくに幼稚園での交通安全教室



園外に出て歩き方の練習をする前に「できるニャンと交通安全を学ぶ」を使って、子どもたちに問いかけながら「止まる」「待つ」の重要性を理解してもらう



駐車場の近くではクルマの出入りにも注意してもらう



様々な交差点で「ストップの約束」を実践して横断

保護者と歩く時は自分の手首を握ってもらうように、子どもたちにも話している



狭い道路でクルマが来たら、通り過ぎるまで身体を横向きにして待つように指導

指導者の皆さんの活動を動画で紹介

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/area/movie/>

安全な道路環境をめざして—19—
SAFETY FOCUS

東京都中野区弥生町1丁目51番

住宅街の中で急ブレーキが多発している小さな交差点

「SAFETY MAP」は、Honda が公開している「SAFETY MAP」に示される交通上の危険が潜むスポットに足を運び、現場の交通環境と事故防止について考察する連載記事です。

「SAFETY MAP」には「みんなの意見」として一般投稿された危険スポット情報が地図上に表示されている。今回「FOCUS エリア」(下記参照)に取り上げるのは、東京都中野区の住宅地で急ブレーキ多発地点となっている交差点だ。「SAFETY MAP」によれば、この交差点では午前中に急ブレーキが発生している。ただし、交通事故多発地点の表示はなく、近年、重大事故も発生していない。なぜ急ブレーキ多発地点となっているか、潜在的な危険を探るため現場を訪れた。

●観察中に交差点を通過した車両
(午前7時30分～9時30分)

四輪車	86台
二輪車	10台



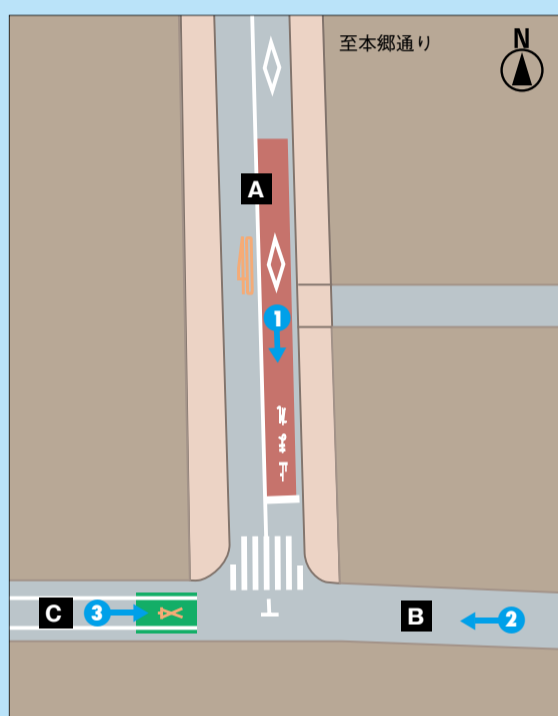
現場をたずねる

FOCUS エリア
東京都中野区弥生町1丁目51番

今回訪れた「中野区弥生町1丁目51番」にある交差点は東京メトロ丸ノ内線「中野新橋駅」から南東へ徒歩5分の距離にあり、中野区内の主要道路である本郷通りにつながっている。本郷通りは都道環状6号(山手通り)につながっているが、交差点は住宅街の中にあるため車両の通行量は少ない。

現場を訪れた平日朝7時30分。雨が降る中、通勤・通学者が足早に駅へ向かっていた。またレインウェア(カッパ)を着た自転車利用者もひんぱんに通行し、その多くが近隣の幼稚園・保育園に子どもを送る保護者のようだった。

交差点から東に向かう道路は小学生の通学路になっていることからスクールゾーンに設定されており、Bは7時30分から8時30分までの1時間、歩行者専用道路となる。



自転車の速度が出やすい道路形状



下り坂になっているため、加速しながら交差点に接近する自転車が多かった

自転車利用者はBまたはCからAに向かって走行する。両方の道とも緩やかな下り坂になっており、交差点はちょうど坂道の底にあたるため、自転車の速度が出やすい形状だ。実際、観察時は幼稚園・保育園の送迎で先を急ぐ自転車利用者が多かったせいもあり、通行する自転車のスピードは高かった。

一方、交差点に進入する車両の多くは本郷通り方面からやってくる。車両からBまたはCから交差点に近づく自転車利用者を目視するには、停止線よりも前に進む必要がある。Aから進入するクルマのほとんどは停止線よりも先の横断歩道上に停止していた。見通しが悪いこの交差点内に進入する際、ドライバーは自転車の存在を予測し、一時停止しなければならない。

観察当日は雨が降っており、自転車利用者の多くはレインウェアを利用していた。しかし、傘をさしながら運転する自転車利用者も散見された。傘さし運転は前方の視界がさえぎられるだけでなく、片手でハンドルやブレーキを操作することになるため、自転車利用者は厳に慎むべきだ。

傘さし運転をしたり、車道の右側を通行する自転車



改善された一時停止標識の設置環境

この交差点には一時停止標識が設置されている。この標識の存在がわかりにくいことが急ブレーキを発生させている要因の1つではないかと思われた。以前は街路樹から伸びた枝で見えにくい状況だったが、観察に訪れた5月下旬には枝が伐採されており、視認性が高まっていた。ただ、交差点の手前にトラックなど大きな車両が停車していると、標識や路面表示は見えにくくなる。この地域を管轄する警視庁中野警察署は、標識設置方法を従来の路側式から車道上部で目視できるオーバーハング方式への変更など、さらなる安全対策を検討している。



交差点にはカーブミラーが設置されている

交差点の手前に車両が停車していると「止まれ」の標識や路面表示が見えにくくなる



一時停止標識が街路樹によって隠れてしまい車両から認識しにくかったが、観察時は枝が伐採され見えやすくなっていた



Bは7時30分から8時30分まで歩行者専用道路となる



交差点周辺には通学路を示す標識が立っている



「SAFETY MAP」のご活用・ご参加をお願いします!

ホンダ セーフティマップ

検索

<http://www.honda.co.jp/safetymap/>

「SAFETY MAP」は「みんなで作る安全マップ」です。Hondaのインターナビが集めた日本中を走るクルマの急ブレーキ情報と、交通事故情報、そして皆さんの声で地図はつくられます。お手持ちのPC・スマートフォンからアクセスできますので、あなたの周囲に危険と感じることのある場所があったら、情報を投稿してください。